

## P-3

### 「動詞性名詞+ダ」の時間性：「発表者は先ほど会場に到着でした」は言えるか？

古澤 純（光ヶ丘女子高等学校）

sapir.jf@gmail.com

#### 要旨

本発表では、「動詞性名詞+ダ」形式の使用文脈を＜時間性＞に着目し、明らかにした。本発表の前半では、＜テンス・アスペクトに関わる副詞的成分との共起の関係＞に着目し、「動詞性名詞+ダ」の使用文脈を記述した。たとえば、「?おいおい過払い金について説明です」の副詞的成分「おいおい」を「次に過払い金について説明です」のように変更することによって、容認度が上昇する例を取り上げ、記述した。また、本発表の後半では、＜過去形＞で現れた場合の使用文脈に着目し、「動詞性名詞+ダ」の使用文脈を記述した。従来「動詞性名詞+ダ」を過去形によって表すことが難しいことは指摘されてきた（「?先ほど東京駅に到着でした」）。しかし、「〈この電車は1時間前に到着したと思っていたのですが、本当は〉先ほど東京駅に到着でした」のように先行文脈を付加すれば容認度が上昇する場合がある。このような例を取り上げ、どのような文脈であれば「動詞性名詞+ダ」の過去形が容認されるかを記述した。その結果、＜当該文が指示する命題の意味上の補集合に関する情報が活性化した状況＞において容認度が上昇するという共通する結論を得た。

#### 0. はじめに

##### ※1 「動詞性名詞+ダ」の定義

…「一ダ」が後接可能かつ「一スル」ないし「一<sup>ちゅう</sup>中」が後接可能な名詞  
+ 判定詞「ダ」（デス、ダッタ、デシタもダの活用として同一のものとみる）

##### ※2 出典記載のない例文は発表者による作例である。

##### ※3 例文の容認度の差やその理由の違いは捨象し、その例文が何らかの理由で容認度が低いことを示す記号として「?」を用いる。なお、引用元の先行研究の例文で「\*」や「??」「#」などで示されている場合にも「?」に置き換えて示す。

#### 1. 問題の所在

(1) ?後ほど私から彼に連絡です。(井上・金 1998:457)

(2) ?近いうちに近況を報告です。(同上)

井上・金 (1998) …「『動詞性名詞+だ』は格成分をとりにくいことも多い」

➤その理由については述べられていない。

(3) よし、さっそく彼に連絡だ。(同上)

井上・金 (1998) …(3) が自然になる理由について述べられていない。

➤本発表では、(1) の「後ほど」、(2) の「近いうちに」、(3) の「さっそく」のようなテンス・アスペクトに関わる副詞的成分の違いが容認度に影響していると考える。

(4) まもなく東京駅に到着です。(同上)

(5) ?先ほど東京駅に到着でした。(同上)

井上・金 (1998) …「過去形『動詞性名詞+だった』を用いて過去の動作を表すことは難しい」

➤その理由については述べられていない。

➤次のような先行文脈を付加した場合には容認度は高くなる。

(6) 〈この電車は1時間前に到着したと思っていたのですが、本当は〉  
先ほど東京駅に到着でした。

(7) 〈事故で到着が遅れていると聞いているがどうなのかと問われ〉  
予定通り東京駅に到着でした。

➤本発表の目的

時間性（特に、テンス・アスペクトに関わる副詞的成分との共起／過去形）に着目し、

「動詞性名詞＋ダ」の使用文脈を明らかにする。

## 2. 先行研究

従来の名詞文研究における「動詞性名詞＋ダ」の位置づけ

三上（1953）…「端折り」＝措定・指定に分類されない名詞述語文

南（1993）…「疑似名詞述語文」＝述部は名詞述語文的でありながら述部以外の成分は  
動詞述語文的である（ハイブリット的性格をもつ）

高橋（1984）…「動作づけ」＝動詞述語が省略された名詞述語文  
（主語と述語の意味的關係からの分類）

➤名詞述語文は「一致の關係」を表すものが典型とされ「動詞性名詞＋ダ」という形式は例外扱い。  
そのため、統語的特徴や意味機能の分析が十分になされていない。

「動詞性名詞＋ダ」を扱った近年の研究

(8) あ、たった今、船が港に接岸です！（大島 2010:91）

(9) もうじき列車が到着だ。（同上）

大島（2010）…「特に眼前で起きていたり、これから起ころうとしていたりする  
ことがらを描写する場合、『…動名詞＋だ』の形の文は許容度が  
高くなるように思われる。」

➤過去形（(6)(7)）での表現が可能であるとしたら、どう説明するのか。

(10) 今朝、体重を量ったらついに75キロ台突入です。（新屋 2015:73）

(11) 長女は年長の部で優勝です。（同上）

新屋（2015）…動詞述語文であれば「(に) 突入していました」「優勝しました」のようにテンス・  
アスペクト形式をとるところであるが、「動詞形態の喪失に連動してヴォイス、  
アスペクト、テンス、モダリティなどの動詞の文法カテゴリーも捨象されている」。  
また、「こうしたデス文の使用が可能になるのは、時間性、書き手の立場、書き手の  
思いなどが文脈から理解できるため」。

➤新屋（2015）にはその「文脈」についての定義がなく、(1)(2)(5)などの  
容認度が下がる場合について明らかにすることができない。

(12) 鳩山内閣支持率急落。その背景を徹底取材です。(鈴木 2012:342)

(13) メジャーリーグのイチロー選手が、電撃移籍です。(田中 2012:16)

鈴木 (2010,2012) 田中 (2012) …ニュースの冒頭で用いられる「動詞性名詞+ダ」に対象を絞り、その統語的特徴、表現効果を記述。

➤使用条件に関する記述は見られない。過去形が用いられにくいとする記述はあるが、その理由に関する考察はない。

(14) 〈居酒屋への入店時〉

客 : あの、予約していた〇〇です。

店員X : 〇〇様ですね、お待ちしております。

(大きな声で) ご予約様、ご来店です！

店員全員 : (大きな声で) いらっしゃいませー！ (古澤 2016:147)

(15) 〈ラーメン店で、客がレジで会計を済ませ、店を出ようとする〉

店員X : (大きな声で) お客様、お帰りです！

店員全員 : (大きな声で) ありがとうございますー！ (同上)

古澤 (2016) …接客場面で用いられる「動詞性名詞+ダ」に対象を絞り、その使用条件を記述。

「接客場面における事象スキーマが話し手／聞き手の双方に共有されている場合に使用できる。」

➤「スキーマ」の定義が曖昧であった。また、統語的特徴の観察が不十分。名詞述語文の特性を踏まえた記述が必要。

### テンス・アスペクト研究からの視点

(16) 明日到着する。／?既に到着する。／?昨日到着する。 (工藤 2012:159-160 注)

(17) 明日到着です。／既に到着です。／昨日到着です。 (同上)

工藤 (2012) …「名詞述語『到着だ、卒業だ』と動詞述語『到着する、卒業する』は、(中略) テンス的に同じではない。」

➤それ以上の詳細な記述がない。

## 3. 分析

### 3-1. 分析1：テンス・アスペクトに関わる副詞的成分との共起

※本発表では、テンス・アスペクトに関わる副詞的成分を以下、便宜上「時間副詞」と称する。

(18) ?そのうち過払い金について説明です。

(19) ?おいおい過払い金について説明です。

(20) 次に過払い金について説明です。

(21) 最後に過払い金について説明です。

➤時間副詞のタイプの違いが、容認度の差に影響している。

➤ 仮説

【「動詞性名詞＋ダ」形式の容認度が上がる文脈】

当該文が指示する命題の意味上の補集合に関する情報が活性化した状況

➤(20)(21)は「次に」「最後に」という時間副詞の存在によって「トピックごとに順序立てて説明する場面」という発話状況が想定され、「過払い金について説明／申込方法について説明／…」と補集合が活性化される。

一方、(18)(19)の「そのうち」「おいおい」という時間副詞は「過払い金についての説明」をいつ行うかということについて不確定的に示すものであり、その補集合である「申込方法についての説明」などの情報は活性化されない。

そのため、(18)(19)と(20)(21)の間に容認度の差が生まれる。

(22) ?後ほど私から彼に連絡です。(井上・金 1998:457) (= (1), 下線は発表者)

(23) ?近いうちに近況を報告です。(同上) (= (2), 下線は発表者)

(24) よし、さっそく彼に連絡だ。(同上) (= (3), 下線は発表者)

➤(24)は「さっそく」という時間副詞の存在によって「さっそく連絡する」に対する「後で連絡する」という補集合が活性化される。

一方、(22)(23)の「後ほど」「近いうちに」は(18)(19)の「そのうち」「おいおい」と同様、「連絡」「報告」をいつ行うかを不確定的に示すものであり、補集合が活性化されない。なお、補集合とは、「後ほど連絡する／後ほど連絡しない」のように肯定・否定の関係的な要素のことではない。

(25) ?私は2月に彼と結婚です。(井上・金 1998:459) (下線は発表者)

➤「2月に」という時間副詞の存在によって「1月に結婚する／2月に結婚する／3月に結婚する／…」と補集合が活性化される。しかし、(25)の「動詞性名詞＋ダ」という表現は不自然である。これは以上の仮説に対する反例に思える例文である。

井上・金(1998)は「『猪木は2月に馬場と対戦です』とすれば自然になるが、この場合、『対戦』はやはり出来事名詞として機能している。実際、『\*2月に結婚がある』とは言えないが、『2月に対戦がある』とは言える。」(井上・金:1998:459)とし、「出来事名詞」かどうか容認度に影響すると主張する。

(26) 私はついに彼と結婚です。

➤しかし、(26)のように「ついに」と時間副詞を変更すれば自然な表現になることから、「2月に」などの時間副詞が出来事名詞ではない動詞性名詞(c.f. \*2月に到着がある／\*2月に散歩がある／\*2月に運転がある)と共起した場合に不自然な表現になるというだけであって、「動詞性名詞＋ダ」という表現が不自然であるとは言えない。

### 3-2. 分析2：過去形の言いにくさ

(27) まもなく東京駅に到着です。(井上・金 1998:457) (= (4))

(28) ?先ほど東京駅に到着でした。(同上) (= (5))

井上・金 (1998) …「過去形『動詞性名詞+だった』を用いて過去の動作を表すことは難しい」

(29) 約1時間10分というフライトだったので、あっという間に到着でした。

(30) 成田空港着ではなく、家に近い羽田空港に到着でしたので、  
すぐに家に帰れたのは良かったです。

➤ (29)(30)のような文脈では、過去形であっても、容認度は比較的高い。なぜであろうか。

まず、非過去形である(27)の容認度が高い理由は、本発表における「仮説」によって次のように説明される。当該例文の読み手が「目的地までの行程における動作主の現在の状態を報告する場面」などの具体的な発話状況を想定して読んでいるからである、と。ここでの「意味上の補集合に関する情報」とは、「先ほど／1時間前／2時間前／…」である。

一方、(29)(30)の過去形の場合であっても、その容認度の高さの理由は、本発表における「仮説」によって説明可能である。すなわち、(29)の場合は「あっという間に到着／長時間かけて到着」、(30)の場合は「羽田空港着／成田空港着」という意味上の補集合に関する情報が活性化されるため、過去形であっても問題なく「動詞性名詞+ダ」の表現が自然になるというわけである。

(28)' 〈この電車は1時間前に到着したと思っていたのですが、本当は〉  
先ほど東京駅に到着でした。

➤ 次に、(28)のように過去形になると不自然になる理由について考える。(28)も(28)'のように先行文脈を付加し、具体的な発話状況を想定して読めば、比較的自然な表現となる。

(27)の「目的地までの行程における動作主の現在の状態を報告する場面」という発話状況では「先ほど／1時間前／2時間前／…」のような「意味上の補集合に関する情報」が活性化しやすいが、(28)'の〈この電車は1時間前に到着したと思っていたのですが、本当は〉のような前文脈なしでは「先ほど／1時間前／2時間前／…」のような「意味上の補集合に関する情報」は活性化しにくい。つまり、過去形になることで発話状況が異なり、それによって「意味上の補集合に関する情報」が活性化されにくくなるため、容認度が下がると考えることができる。

### 3-3. 分析3：「動詞性名詞+ダ」の過去形の意味

(31) 先ほど東京駅に到着だ (\*到着する／到着した)

(32) 〈空港に娘を迎えに来たが到着時間を勘違いして早く来てしまった。電光掲示板をみて〉  
今から1時間後に到着だった (到着する／\*到着した)

➤ (31)のように発話時を基準軸として述語が表す事象が〈以前(過去)〉の場合、動的述語「到着する」は非過去形「到着する」の使用が許されない。逆に、(32)のように述語が表す事象が〈以後(未来)〉の場合、動的述語「到着する」は過去形「到着した」の使用が許されない。

しかし、「動詞性名詞＋ダ」は(32)のように過去形と非過去形の両方が使用可能な場合がある。これは、「動詞性名詞＋ダ」に限らず、非動詞的述語一般（アスペクト対立のない動詞（ある、いる／優れている）、形容詞述語、名詞述語）の特徴でもある。

工藤（1998:77）によれば、このような過去形と非過去形の使い分けは、話し手の焦点のあて方に違いがあり、＜事象側の成立時（過去）＞を前面化する場合には過去形を、＜話し手側の判断時（現在）＞を前面化する場合には非過去形が使用されるとする。

また、工藤（1998:78）は「＜動詞的述語＞の場合と違って、＜非動詞的述語＞の過去形には、時間的過去を表さない＜発見・思い出し＞というモーダルな意味がある」としている。

(33) 現在も妥当な事象は、非過去形で表すのが基本的（unmarked）であるのだが、話し手の過去の具体的確認時に焦点をあてれば、過去形が使用される。この具体的確認時がぼやけると＜思い出し＞というモーダルな意味が前面化する。また、発話現場における確認が前面化すると＜発見＞になる。

・＜現在も妥当な時間に縛られない特性評価＞

「広尾は高級住宅地だ」

・＜話し手の過去の確認時の前面化＞

「この間広尾に行ったけど、高級住宅地だったよ」

「この間地価を調べたんだけど、広尾は高級住宅地だったよ」

・＜思い出し＞

「広尾と言えば、高級住宅地だったね」

・＜発見＞

「広尾の地価はすごく高いよ」「そんな高級住宅地だったの」（工藤 1998:78）

➤以上の工藤（1998）の指摘は、「動詞性名詞＋ダ」の過去形が自然となる使用文脈を考える際に重要な視点である。すなわち、＜事象側の成立時（過去）＞を前面化する文脈（話し手の過去の具体的確認時に焦点をあてた文脈）、また、その具体的確認時をぼやかした文脈（＜思い出し＞や＜発見＞といったモーダルの意味が前面化する文脈）を想定すれば、「動詞性名詞＋ダ」が自然な表現となるのではないか。

事実、「非動詞性名詞＋ダ」の過去形の容認度が高い例文（(28)', (32)）は、〈この電車は1時間前に到着したと思っていたのですが、本当は〉や〈空港に娘を迎えに来たが到着時間を勘違いして早く来てしまった。電光掲示板をみて〉といった前文脈がつき、＜思い出し・発見＞のモーダルの意味が表されていた。＜思い出し・発見＞といったモーダルの意味は、前提として「思い出せない状況」や「知らない状況」「勘違いしていた状況」がある。それらの要素は、本発表における「仮説」の「命題の意味上の補集合に関する情報」に含まれるものと考えられる。

(34) ボクラハ 12 日ニ神戸カラ船デ出発ダ。(南 1993)（下線は発表者）

(35) ?ぼくらは 12 日に神戸から船で出発でした。

➤従来、(34)のような例文をそのまま(35)のように過去形に改変し、「動詞性名詞＋ダ」は過去形で表しにくい、また、過去の事態は「動詞性名詞＋ダ」で表しにくいとされてきた。それは、非

動的述語のテンス的特性を考慮しない乱暴な結論づけであると言える。非動的述語たる「動詞性名詞＋ダ」は動的述語の過去形とは異なる特徴をもつ。その特徴を考慮した＜思い出し・発見＞のモーダル的意味の出る文脈を想定すれば、以下の(36)～(39)のような容認度の高い表現となる。

(36) そういえば、ぼくらは12日に神戸から船で出発でした。

(37) そういえば、ぼくらは12日に出発でした。

(38) そういえば、ぼくらは神戸から出発でした。

(39) そういえば、ぼくらは船で出発でした。

➤ (36)は「そういえば」を付すことにより＜思い出し＞の文脈になり、(35)の例文より比較的容認度は上昇するが、(37)～(39)のように＜思い出し＞の対象となる要素を限定することにより容認度は上昇し、＜思い出し＞の文としては適切な表現となる。

#### 4. 今後の課題

「非動的述語のテンス」を扱った工藤(1998)では、「動詞性名詞＋ダ」を取り立てて議論されていない。工藤(2012)では注に「名詞述語『到着だ、卒業だ』と動詞述語『到着する、卒業する』は、(中略)テンス的に同じではない」(工藤 2012:159-160 注)との文言があるが、それ以上の詳細な記述がない。今後、他の非動的述語と「動詞性名詞＋ダ」のテンス的特徴の違い、また、その違いの理由については名詞述語文独自の性質からの考察を試みたい。そして、その結果に基づき、本発表で挙げた「仮説」の見直しを行いたい。

#### 参考文献

井上優・金河守(1998)「名詞述語の動詞性・形容詞性に関する覚え書：日本語と韓国語の場合」

『筑波大学「東西言語文化の類型論」特別プロジェクト研究報告書 平成10年度Ⅱ』455-470.

大島資生(2010)『日本語連体修飾節構造の研究』ひつじ書房.

工藤眞由美(1998)「非動的述語のテンス」『国文学解釈と鑑賞』63-1, pp.66-81, 至文堂.

工藤眞由美(2012)「時間的限定性という観点が提起するもの」『属性叙述の世界』pp.143-176, くろしお出版.

新屋映子(2015)「新しいデス文：その実態と機能」『日本語文法』15-2, pp.65-81, 日本語文法学会.

鈴木智美(2012)「ニュース報道およびブログ等に見られる「～です」文の意味・機能：「～を徹底取材です」「～に期待です」「～をよろしくです」」『東京外国語大学論集』84, pp.-341-357, 東京外国語大学.

高橋太郎(1984)「名詞述語文における主語と述語の意味的な関係」『日本語学』3-12, 明治書院.

田中伊式(2012)「ニュース報道における「名詞＋です」表現について」『放送研究と調査』62-10, NHK放送文化研究所.

古澤 純(2016)「接客場面におけるデス文の使用条件」『日本語文法』16-2, pp.144-152, 日本語文法学会.

南不二男(1993)『現代日本語文法の輪郭』大修館書店.

三上 章(1953)『現代語法序説』刀江書院.